第二十三講　漢文の読解②

Step 1

一　次の【漢詩】を読んで、あとの(1)~(3)に答えなさい。

【漢詩】

秋思(しゅうし)　張籍(ちょうせき)

洛陽城裏(らくようじょうり)秋風(しゅうふう)を見る
家書を作らんと欲(ほっ)して意(おも)ひ万重(ばんちょう)
復(ま)た恐(おそ)る怱怱(そうそう)として説きて尽くさざるを
行人(こうじん)発するに臨みて又封を開く

洛(注1)陽城裏見ル二秋風ヲ一
欲シテレ作ラント二家書ヲ一意ヒ万重
復タ恐ル怱(注2)怱トシテ説(注3)キテ不ルヲレ尽クサ
行人臨ミテ発スルニ又開ク封ヲ

（注1）洛陽城裏……洛陽の町中。洛陽は河南(かなん)省の都。筆者は故郷を離れて洛陽にいる。

（注2）忽忽……慌ただしい様子。
（注3）説……言う。

(1) ある生徒が、【漢詩】の内容について次のようにまとめました。［A］、［B］に入る適切な内容を、［A］は**十字以内**で、［B］は**十五字以内**で、それぞれ書きなさい。

洛陽の町中に、秋風が吹く頃になった。［A］を書こうとするが、さまざまな思いが重なる。慌ただしく書いたので、［B］のではないかとまた心配になり、手紙を託す旅人が出発するとき、もう一度手紙の封を開いてしまう。

A

B

(2) 行人臨（ミテ）発（スルニ）又開（ク）封（ヲ）に、書き下し文を参考にして、**返り点**をつけなさい。

行　人　臨（ミテ）　発（スルニ）　又　開（ク）　封（ヲ）

(3) 【漢詩】にこめられた思いとして最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1　惜別　　2　博愛　　3　悔恨　　4　望郷

［　　］

【青森県】

Step 2・3

二　次の李白（りはく）の漢詩を読んで、1～5の問いに答えなさい。

【Ⅰ】　＊汪倫（おうりん）に贈る

李白舟に乗つて＊将（まさ）に行かんと欲す
忽（たちま）ち聞く岸上＊踏歌の声
＊桃花潭（たん）水深さ千尺
及ばず汪倫我を送るの情に

李白乗舟将欲行
忽チ聞ク岸上踏歌ノ声
桃花潭水深サ千尺
不レ及バ汪倫送ルノレ我ヲ情ニ

【注】
＊汪倫……李白の友人の名前
＊将に……今にも
＊踏歌……足で地を踏んで調子を取って歌うこと　またその歌
＊桃花潭……川の名前　潭は水が深くよどむところ

【Ⅱ】 *黄鶴楼（くわうかくろう）にて孟浩然（まうかうねん）の広陵に之（ゆ）くを送る

故人西のかた黄鶴楼を辞し
煙花三月*揚州（やうしう）に下る
孤帆の遠影碧空（へきくう）に尽き
*惟（た）だ見る長江の*天際に流るるを

故人西ノカタ辞シ二黄鶴楼ヲ一
煙花三月下ル二揚州ニ一
孤帆ノ遠影碧空ニ尽キ
惟ダ見ル長江ノ天際ニ流ルルヲ

【注】
＊黄鶴楼……長江のほとりにあった高い建物
＊揚州……長江下流の都市　広陵のこと
＊惟……「唯」と表記される場合もある
＊天際……空の果て

Step 2

1 【Ⅰ】【Ⅱ】に共通する漢詩の形式を、**漢字四字**で書きなさい。

Step 2

2 【Ⅰ】の李白乗舟将欲行に、返り点と送り仮名を補うとき、書き下し文を参考にして、解答欄の□に返り点を、（　）に送り仮名を書きなさい。

李　白　乗□（　）舟（　）将ニ　欲□（　）行（　）

Step 2

3 【Ⅱ】の詩の中で「別れを告げる」の意味で用いられている**漢字一字**を、抜き書きしなさい。

□

Step 3

4 【Ⅰ】【Ⅱ】の書き下し文に共通して見られる表現技法として適するものを、次のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

ア　対句法　イ　反復法　ウ　倒置法　エ　体言止め

□

Step 3

5　次の表は【Ⅰ】【Ⅱ】の漢詩を比較して、まとめたものである。後の(1)〜(3)の問いに答えなさい。

題／項目	汪倫に贈る	黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る
立場	李白が〔　a　〕立場	李白が〔　b　〕立場
情景	舟が出ようとすると、岸辺から急に、汪倫の声かけで集まった村人たちの歌声が聞こえてくる	花咲き霞（かすみ）たなびく三月、友の乗った一艘（そう）の舟の帆が〔　c　〕、青空の中に消えていく
感動の中心	桃花潭の水深に比べて〔　d　〕に対する感謝の思い	長江の広がりと、それによって際立つ言いようのない孤独感

(1)　【Ⅰ】【Ⅱ】の漢詩は、ともに「送別」をテーマによんだものである。作者の立場の違いが明確になるように、表の〔　a　〕〔　b　〕に適する語句を、それぞれ**五字以内**で書きなさい。

a

b

(2) 表の〔 c 〕に適する内容を、**十字以内**で書きなさい。

(3) 表の〔 d 〕に適する内容を、作者が何に感動したかが分かるように、**十五字以内**で書きなさい。

【秋田県】

〈Note〉

第二十三講　漢文の読解②

Step 1

一

解答

(1) A、家族にあてた手紙（または、故郷にあてた手紙）（8字）　B、思いを言い尽くせていない（または、言い残した思いがある）（12字、または10字）（それぞれ同意可）　(2) 行　人　臨(ミテ)レ発(スルニ)又　開(ク)レ封(ヲ)　(3) 4

解説

(1) A、「家書」の意味が入る。ここでの「書」とは手紙を指す。B、「説きて尽くさざる」ということを心配している。

(2) 一字戻って読む場合には「レ点」を、二字以上戻って読む場合には「一・二点」を用いる。

(3) 「家書を作らん」と欲し、その思いを言い尽くしたいという気持ちを表している。

Step 2・3

二

解答

1、七言絶句　2、李　白　乗(ツテ)レ舟(ニ)将(ニ)欲(ス)レ行(カント)　3、辞　4、ウ　5、(1) a、見送られる　b、見送る（それぞれ同意可）

(2) 次第に遠ざかり（同意可）　(3) さらに深い汪倫の心づかい（12字）（同意可）

解説

1、一句が七文字で、四句からなる漢詩である。

2、一字戻って読む場合には「レ点」を、二字以上戻って読む場合には「一・二点」を用いる。

3、「辞する」は「別れる」という意味で用いられている。

4、Ⅰでは「岸上踏歌の声」と「忽ち聞く」、「汪倫我を送るの情に」と「及ばず」の順番が入れかわっている。Ⅱでは「長江の天際に流るるを」と「惟だ見る」の順番が入れかわっている。

5、(1) Ⅰは、李白が舟に乗って行こうとしているときによんだ詩であり、Ⅱは、孟浩然が広陵へ行くときに李白がよんだ詩である。(2)「孤帆の遠影」が「碧空に尽き」とある。舟の姿が遠くに見えるようになり、やがて青空に消えて見えなくなる様子が表されている。(3) 桃花潭の深さが、汪倫の自分を送る気持ちに及ばないということであり、汪倫の気持ちがそれだけ深いことを言ったものである。

口語訳

Ⅰ、李白は舟に乗って今にも行こうとしている。突然、岸から足で調子を取って歌う声が聞こえる。桃花潭の深さは千尺もあるが、汪倫が私を送る気持ちの深さには及ばない。

Ⅱ、旧友が西の方角の黄鶴楼に別れを告げ、花が煙るように咲く三月に広陵へ下っていく。一そうの舟の帆の遠影が青空に消えていき、ただ長江が空の果てに流れるのを見るだけである。